



高松市で15日、第44回8・15戦争体験を語りつぐ集いが開かれ、新しく小中学生やその親、若い大学生が集団で参加するなど主催者想

定の倍以上、会場満席の約130人が参加しました。同実行委員会の杉村智子代表は「世界中の戦争が終

元高校教師で在職時に高松空襲を記録する会を立ち上げ、戦争体験の語り部をしている浄土卓也氏と、劇団マダレーナを主宰する脚本・演出家の大西恵氏が講演。浄土氏の半生を描いたドキュメンタリー映画監督の金穂

戦後・被爆80年 8・15戦争体験を 語りつぐ集い

民主香川

定価 月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13-14
☎(087)834-7311

「3面から」条約に署名と批准を求めるものです。核兵器禁止条約の署名国は94カ国で批准国は73カ国、条約採択賛成国は国連加盟国の63%の122カ国です。藤沢やよい高松市議や参加者は、「核兵器は安上がり、この政治家の発言は、長崎や広島の実態を知らない発言だ」、「8月6日の長崎、9日の広島への原爆

被害や被爆者の実相を知り、核兵器の非人道性を知って欲しい」、「核抑止力論の台頭や、ロシアとウクライナの戦争やパレスチナ・ガザハイスラエルのジェノサイドなど戦争や紛争、虐殺を許してはならない」、「暮らしや平和を押しつづす、日本政府の大軍拡に反対。武力で平和はつukれない」などと訴えました。

香川から自民党政治に終止符を。

新参議院議員/
白川よう子を迎え

党と後援会の集い

とき 9月14日(日)13:30-16:30

場所 サン・イレブン高松
高松市松福町2丁目15-24 ☎087-821-3315

郷土史辞典「笠居郷探訪」(一部抜粋) ③〇

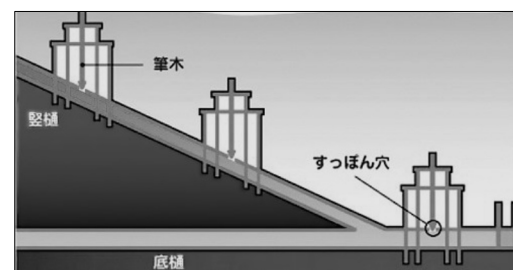
ユル

(ゆる)
著者 立山信浩

揺(ゆる)。開(ゆる)。ゆるため。ため池の水を抜き放水する装置で、竪樋(たてひ)と底樋(そこひ)からなる。竪樋と底樋を合わせて樋管(ひかん)ともいうから、樋管をユルということも出来る。

竪樋は堤防の斜面に沿って水中に設置してある。スッポンユルと呼ばれる昔のタイプのユルでは、竪樋の途中に2、3カ所の取水孔(スッポン孔)があり、取水孔は筆木(フデギ)と呼ばれる木製の栓を上げ下げすることで開閉する。筆木を抜き上げれば池の水が取水孔から竪樋に入る。大きな池の場合、筆木の頭は堤防からかなり離れた水面上に鳥居のような形で出ているから、そこまで泳ぎついてから筆木を操作した。

底樋は、池の内側と池の外側をつなぐ樋管であり、堤防底に埋設されて竪樋と池の底で連結している。取水孔から入り竪樋を通ってきた池の水は、底樋を通じて堤防の下をくぐり、池の外側のイデ(用水路)へ流れ出す。昔の樋管は木製であつたから腐食が早く、数年ごとに池普請(いけふしん)を行ってユルの付け替えをした。特に堤防を完全に切り崩して行つた底ユル(底樋)の付け替えは、稲刈り終了後に直ちに行つた難工事であつた。



「笠居郷探訪」は今回が最終回です。立山さん、長い間ご苦労さんでした。

敗戦の日に街頭宣伝 平和憲法を生かす香川県民の会

敗戦の日の15日、平和憲法を生かす香川県民の会は、香川県下の計9カ所で街頭宣伝をしました。

高松市の繁華街での昼の宣伝には約60人が参加。太平洋戦争の惨禍や平和などを訴える「フ入りティッシュ」を配り、リレートークをしました。

県民の会の饗場和彦代表委員は「近衛文磨首相が戦争の早期終結を天皇に求め

万(キム・インマン)氏の映画を見ました。浄土氏は県内の朝鮮人強制連行の実態を解説。「20、21世紀の戦争の特徴で、多数の子ども、女性、高齢者の非戦闘員が傷つき、亡くなった」と指摘しました。大西氏は「戦時など極限状態の人間の作品を多く発信してきたが、いまの政治を考えると、戦禍のメッセージや平和の価値が伝わっていない。演劇人も変わるべきだ」と述べました。

会場からは「なぜ戦争が起きたのか。死ぬ前に戦争の記憶を伝えたい」(高松空襲被災者90代女性)、「差別におびえて生きてきた。強制連行の事実を知ってもらえてよかった」(在日コリアン2世女性)、「いま戦争を知らない世代が増え、排外・差別主義すらある。これからどう戦争の教訓を次世代に引き継げばよいか」(30代男性)などの発言や質問がありました。



るも、拒否された。そして戦争が続き、東京や高松空襲、広島や長崎【2面に

異台教太

戦後80年の今年、日中戦争、太平洋戦争のことを改めて考えました。日本が中国などのアジアの国々を侵略し、真珠湾攻撃でアメリカとも戦う道を選び、多くのアジアの人々や日本人が戦争の犠牲になりました。戦争に反対する人々は治安維持法で検挙し、一般人も国策に反対すれば非国民となじられ、抵抗できないようにされました。

赤紙一枚で戦地に送られ、その多くの兵士が戦死より、栄養失調による餓死や戦病死で命を落とし、生きたいと願っても拒否することが許されない特攻死。このような死に方を強いられた兵士や沖縄で広島・長崎で各都市でアメリカ軍により、無差別に命を奪われた民間人などを含む310万人に贈るべき言葉は「戦争を選択することがない世の中にします」です。そして、日本の侵略で命を奪われた2000万人を超えるアジアの人々には「酷い戦争を引き起こした責任を痛感し、同じ過ちを2度と犯しません」と許しを請い続けることと戦争の悲惨さを次世代につないでいくことが私たちの使命だと思います。(C)